

「教員免許状更新講習」報告

令和元年 7月31日（水）～ 令和元年 8月 2日（金）2泊3日

【目的・趣旨／概要】

今日の社会的環境及び児童・生徒の現状や発達段階を踏まえ、体験活動の意義と必要性及び教育的効果についての理解を図る。また、自然体験活動を実際に体験し、教員に求められるコミュニケーション能力の向上や自然体験活動の指導方法を身につけることにより、教員としての指導力の向上を図る。



【講師】

鈴木 且雪 氏	（西郷村教育委員会教育長）
古川 和 氏	（株式会社EHRエグゼクティブコンサルタント）
青木 康太朗 氏	（國學院大學 准教授）
岡田 成弘 氏	（仙台大学 准教授）
江口 俊文 氏	（企画指導専門職）
矢内 淳仁 氏	（ 同上 ）

【募集対象／実績】

《募集対象》小・中・高等学校及び、特別支援学校教員 30名程度

《実績》小・中・高等学校教員 15名

【プログラム概要】（企画にあたって工夫したことも記載）

①7/31（水）講義「教育の現状と課題」 10:00～11:30（1.5時間）

講師：西郷村教育長 鈴木 且雪 氏

教育の現状として、西郷村の事例を挙げながら、新学習指導要領に向けた社会に開かれた教育課程の編成とカリキュラムマネジメントについての促進、そして、体験活動の教育的意義とその効果について説明があった。また、今後の課題として、児童・生徒に教育活動全体を通して自発性や自主性、共生する能力をいかに身に付けさせるかについて説いた。



②7/31（水）実習①～③「授業に活かせる体験型学習の実際と理論」

13:00～20:30（内5.5時間）

講師：株式会社 EHRエグゼクティブコンサルタント 古川 和 氏

古川氏は、受講生にファシリテーター（創造的な学びの場に必要な促進者）としての理論を、チームビルディングを用いた実習を通して指導した。受講生は、教師がクラスを創造的な学びの場にするために、単に学習を教えるだけのコーチのような存在ではなく、ファシリテーターとしての役割を担う存在となることの理論について学んだ。



③8/ 1（木）講義「体験活動の実際と安全管理」9:00～10:00（1.0 時間）

実習「体験活動ワークショップ」 13:00～15:00（2.0 時間）

講師：國學院大學 准教授 青木 康太郎 氏

青木氏は、学校内外の体験活動時に生じた過去の事例を挙げながら、受講生に指導者側の安全配慮上の義務違反について説いた。また、過失について予見可能なものと回避可能なものがあることを説明し、次時の実習（野外炊事）で注意すべきことを受講者と確認した。

実習時のワークショップで受講生は、自然体験活動に潜む危険と緊急時の応急処置について学んだ。



④8/ 1（木）実習「実際の体験活動と指導法（野外炊事）」

10:30～12:30（2.0 時間）

講師：企画指導専門職 江口 俊文 氏

上記青木氏の講義後の実習で受講生は、具体的に児童・生徒に安全管理を説くことを見越した野外炊事を行った。手際よく調理を行うことができた一方で、かまどへの火おこしに苦労している姿があった。実習後、受講生は江口氏と効率的なまきの組み方について確認した。



⑤8/ 1（木）講義「体験活動プログラム企画のポイント」

15:30～16:30（1.0 時間）

実習「野外での指導スキル向上をねらいとしたナイトプログラム体験」

18:30～20:30（2.0 時間）

講師：企画指導専門職 矢内 淳仁

例年、受講生を主体としたキャンプファイヤーの企画づくりと実践を行っていたが、今年度は、野外での夜の体験活動プログラム作成に特化した企画づくりを参加者に実施してもらい、それを参加者相互が体験する活動とした。ねらいとして、参加者になすかしの森のフィールドを実感してもらい、指導者の視点でプログラム開発に取り組んでもらうことをねらいとした。



⑥8/2（金）講義「体験活動を活かした主体的対話的なクラスづくりとその理論」

9:00～11:00（2.0 時間）

講師：仙台大学 准教授 岡田 成弘 氏

岡田氏は、クラス運営で大事にすべきことは、教師が自らやってみせて児童にやらせてみせて、それをほめ、認めることで、人は育ち、児童との信頼関係を構築することに繋がると説明。そのためのクラス運営に有効な理論として「ジョハリの窓」「マズローの5段階説」「コンフォートゾーン」などを解説した。岡田氏は、講義の最後に“理論は手段であり目的であるので、いかに児童理解やクラス運営につなげるかが大切”と説いた。



【成果】

・受講者の評価書アンケートにおいて、「よい（十分満足した・十分成果を得られた）」の評価 100%を得ることができた。

・初日に、所属の異なる参加者同士が意見交換できる場を設け、参加者からはお互いの考えを共有することができ、好評であった。

・参加者が那須甲子のフィールドを活かして、野外活動（ナイトハイク）の企画計画を作成する実習を行った。那須甲子を利用する教員の中には、各学校に継承してある既存の野外活動プログラムに疑問をもちながら実施している者もいるので、新たにプログラムを開発するよい機会となった。

《参加者の声》

「どの講習も“参加している”と感ずることができ、また、グループでの活動では他の参加者の意見や考えを交流することができ大変参考になった。」「講義ばかりではなく実習やワークショップがあり、飽きずに参加することができた」「講師陣の経歴等をインターネットで確認してから応募した。講師陣が大変よかった。」「どの講習も自分自身が夢中になれて楽しく充実しました。」等

【課題と方策】

・参加者が 15 名と定員に満たなかった。今後、年度内に予告チラシを作成し、広報活動を開始する。その際、

参加者アンケートの声をチラシに記載し、応募者にとって講習のイメージが容易になるようにする。また、

少なくとも、西郷村内の小中学校には直接出向き、該当者への参加を促すようにする。

・参加者の宿泊室が男女によって差が生じないように配慮する。

・座学一辺倒の講義形式だけにすることなく、体験的・実践的な講義内容になるよう、講師と授業内容の検討を密に行う。

・疲れが出やすい午後の講義は、なるべく体験活動を伴う講義となるよう配慮する。

国立那須甲子青少年自然の家【作成】企画指導専門職：矢内 淳仁